

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑式番館 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	平成29年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、久留米市内でも高齢化特に高齢者単独世帯が多い地域に昨年11月に開設し、地域の中の認知症を患われてしまった方々の住む「家」として事業を行っている。ご利用者が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らしていけるように支援しており、日頃の散歩・地域の夏祭りに参加している。ご利用者様の認知症の状況・身体の状況は其々でも、互いが互いを必要とし同じ「いえ」に住む疑似家族として生活を支援しており、数名のドクター及び訪問看護ステーションと連携しターミナル・お看取りまで支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近くに幹線道路やホームセンターのある商業地区に隣接した場所に建てられた木造二階建てで、2つのユニットを有している。管理者や職員は理念にある「暖かい家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様の尊厳を大切にしつつ、共に暮らしながら、心からのケアに努めます。」を念頭に置き、認知症になっても住み慣れた地域の中でその人らしく、生き生きと暮らし続けることができるように全職員一丸となって取り組んでいる。代表者、管理者、職員同士のつながりも強く家族のように利用者とかかわり、利用者が笑顔で暮らせるように個々のペースに合わせた支援を行っている。開設して本格的にサービスを始めてまだ数ヶ月ではあるが、校区内に同じ法人の持つグループホームもあり、今後の活動に期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の介護理念は、法人の理念であり、この理念が実践できるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念を事業所の理念としている。管理者と職員は、理念を毎日の朝礼時及び毎月のミーティング時に唱和して、共有を図っている。日常生活の中で、理念に沿った心からのケアができるように日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、校区夏祭りへの参加等、地域との付き合いは行っているものの、今後益々「地域の一員として」交流を深めていきたい。	地域の一員として自治会に加入している。清掃活動を行ったり、コミュニティセンターでの夏祭りへ参加したりして地域との交流に努めている。事業所を開設して本格的に活動を始めてまだ数ヶ月なので、今後も活動の幅を広げていく意向である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座で講師を努めるとともに、他の事業者と共に地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるかを模索している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議には、市職員・包括職員は勿論、他の小規模事業所・薬剤師にも入っていただき、各方面からの屈託のない意見を頂戴しサービスの向上に努めている。	2ヶ月に一度の運営推進会議には利用者及び家族、市職員、包括支援センター職員、自治会関係者、薬剤師その他密着型サービスの事業所管理者などが参加している。会議では利用者の日々の暮らしについて、行事、研修報告と活動予定、ヒヤリハット事故報告を行い意見をもらうようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米市介護福祉サービス事業者協議会の理事長を仰せつかっており、グループホームに限らず、久留米市内の事業所の実情、行政としての指導等、協力関係を築けている。	代表者が協議会の理事長をしていることから情報も入りやすく、日頃から市担当者と連絡を密に取り、協力関係ができています。包括支援センターから、久留米市独自の徘徊ネットワークを立ち上げようという提案があり、取り組みに向けて協議中である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ(18時以降)としフロアの入り口はいつでも出入りできるようにしている	代表者及び全職員が身体拘束をしないケアについての知識を理解して日々のケアに活かしている。18時～9時のみ施錠している。玄関を含めた3ヶ所にセンサーを配置し、(利用者家族の了解済み)各箇所の音を変えてすぐに対応できるようにしている。利用者が外出する時は、同行したり後方からそっと見守るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置しスタッフの現在のストレス状態など理解し虐待につながらないように努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を苑内で開き学んでいる。ご家族への説明は行っているがまだ活用はできていない。必要がある方には今後も支援していきたい。	研修を年1回、同法人であるさくら苑と合同で行っている。管理者や職員は制度の必要性について理解している。必要と思われる利用者、家族及び関係者に説明して活用できるように支援している。現在、制度を利用中の方が1名いる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、十分な説明を行い納得の上、サービスの利用が開始されるよう努めている。サービスの利用開始後に於いても、気兼ねなく相談頂けるよう声かけを行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声をかけご家族との信頼関係を築き、意見や要望を言いやすい関係を作っている。家族会資料には市役所介護保険課、国保連の電話番号を記載し、ご家族が意見や要望を外部へ発信いただけるよう努めている。	管理者や職員は利用者、家族が当事業所以外にも意見や要望を話せる公的機関があることを伝えており、意見、要望があった時には運営に反映させている。隣家の建設中に駐車場出入り口の見通しが悪いとの意見が出た折には検討した。現在も駐車場への出入りやスペースについての意見があり検討中である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者が集まり運営会議を定期的に行っており、職員の意見を運営に反映できるよう努めている。	事業所建設時から職員の意見を取り上げている。事例として、介助しやすく利用者の負担が少ない角度での便器設置や、脱衣場の手摺の取り付け、リビングの椅子足にはリサイクルテニスボールをカバーとして活用すること、見守りセンサー設置等の意見を運営に反映させている。現在浴室の鏡設置についての提案を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたって性別・年齢を理由に採否を決定することはない。しかし、高齢者・認知症・介護に対する考え方によっては、採否を決定している。	定年は70歳にしているが、延長が可能である。現在男性9名女性11名が働いており、職員の急な休みにも対応している。職員が外部で研修を受けた際には研修報告書の提出をもって手当てがでている。代表者及び管理者は職員が社会参加や自己実現の権利が保障されるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会、外部の研修など参加し研修後は他スタッフへ報告している	人権教育・啓発活動については、ケアの方法から虐待防止と連動したものと捉え含めた研修を行っている。人権や尊厳についての理解はできており、虐待防止についても併せて学習している。	人権に関することと、虐待防止の学習については関係性はある分野であるが、より一層理解が進むように、すみ分けをして学習することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会が行う研修及び法人内研修には多くの職員が参加し、日々トレーニングを行い、職員それぞれが自己の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会・ボーリング大会及びその他の研修会、運営推進会議・包括の地域ケア会議等を通じ、地域の他の事業所との交流に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向を聞きケアプランに反映している。また不安のある場合には話をよく傾聴することで安心できる声掛けを行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、入居者様同様ご家族にも意向の確認の上ケアプランの作成及び十分な説明を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で情報収集を十分行い最優先される課題設定に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を1人の人として家事などに協力していただくなど協力しながら寄り添うケアを心がけている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題が生じた場合にはご家族と相談するなどし解決に努めたり病院受診などに行きしていただくことでご本人を支え合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には自宅で愛用されていた物や写真などを置いて安心してくつろげる雰囲気づくりに努めている。またご家族とも連携を図り円滑に外出や面会などが出来るよう支援している	自宅に帰りたいといわれる場合には職員が同行していたり、できるだけ家族とともに外出できるように支援したりしている。家族が仕事で会いに来れない場合は、職員が家族の職場に同行することもある。また、居室に仏壇を置いている利用者もあり、事業所に菩提寺の住職が法要に来ている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や一人ひとりの性格を把握しリビングの席の配置などに配慮している。レクレーションなどでも皆さんで楽しく参加できるようにスタッフが間に入り援助を行っている		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了することによりご家族様にお会いすることは少なくなるがのちに面会や連絡があった場合ご利用者様の状況の確認や場合によっては相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン作成時にご本人やご家族にたずね把握している	その時々で希望や意向が変わる利用者であっても、会話を重ねたり、行動を見守る中で、できるだけ本人のその時の気持ちに答えられるよう心掛けている。職員は、利用者担当制であり、家族を通して本人の意向を尋ね、その人らしい生活が継続できるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり生活環境は変化するが個人ファイルにて今までの生活歴を確認しただけ馴染のある暮らし方に近い環境を作るよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活リズムを把握し心身状態では様子観察、またバイタル測定にて異常と判断した場合は医師への連絡、相談、受診、往診をしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場のスタッフの情報、医師の診断、また、ご家族の意向を確認しカンファレンスで話し合い、ご本人やご家族の意向に近いサービスを計画し提供できるよう取り組んでいる	カンファレンスを月に1回開催し、全職員で検討している。家族が訪問時に意見等を把握し、受診時に医師の意見を聞き介護計画書の原案を作成している。3ヶ月に1度介護計画の見直しを含め必要なケアの変更を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度フロア内会議(カンファレンス)にて実践結果、今後の課題についての見直し、検討を施行		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人に変化があればその都度スタッフで話し合い、その時に応じたサービスを提供できるよう支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源は把握し、ご本人のできる事を伸ばしつつ自立支援を心掛け日々の暮らしを充実して過ごせるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりのかかりつけ医をそのまま利用されたりご家族様が病院にお連れできない方は往診の先生を紹介している。またそれぞれの主治医への報告連絡をするように努めている	事業所の協力医による定期往診(内科、歯科)もあるが、在宅時からのかかりつけ医との連携も行っている。家族が連れて行く場合は、事前にその病院へ情報提供を行い、職員が連れて行く場合は結果を家族へ報告している。通院が困難になった場合でも、その方のかかりつけ医が往診する場合もあり、個別の対応をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全スタッフが気づいたことなど申し送りノートや個別ノートまたは口頭にて看護師に伝え先生に連絡している。また看護師でなくても先生への報告連絡をするように努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中お見舞いに行ったり電話にて病院側と連絡を取りながら状態を確認し苑の受け入れと退院の見込みを相談しながら早期の退院に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様や可能であれば本人に意向を聞くようにしている。主治医や訪問看護と連携をとり支援している	各々状況が違う中で、できる限り本人と家族の意向を重視したケアにあたっている。家族との最期の時間が取れる様、希望があれば居室での宿泊も可能である。後の喪失感に対しても理解し寄り添っている。医師との連携はもちろん、終末期を迎える利用者の痛みや気持ちを理解しさりげなく寄り添う取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	口頭やカンファレンス時にその都度対応の仕方は伝えているがいつでもすぐに見れるようにマニュアル作成を考えている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	身に着けるまでには至っていないが避難訓練を行い避難できる方法を身に付けるべきである	昨年11月に開設し、徐々に整備しながら今年4月満床となった経緯から机上訓練を行った。年内には利用者、地域等の参加の避難訓練を行う予定で調査時点では実施に至っていない。避難誘導では、消防署指導にて空室となった目印に枕を廊下に出す取り決めとしている。職員の緊急連絡先を目の届くところに貼りだし、一斉通報手段も確立している。	満床になったところでもあるので、早期に避難訓練の実施とあわせ、法人の災害時対応マニュアルが実行可能かの検証を期待したい。また、ライフラインが切断されることも勘案し事業所ごとに備蓄品を用意することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にしつつ自尊心と利用者の気持ちを第一にした対応を行っている	利用者がどのように思い感じているかを常に利用者の立場になって考え、傾聴し、共感している。特に排泄の誘導では、周囲に気づかれないように耳元でささやくように声掛けをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を会話の中で聞き志向がまともでない方は一言ずつ確認しながら全体像を把握するよう努めている。それをカンファなどで共有している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まってはいるが強制はせず本人のペースを大切にしている。帰宅願望などで玄関の外に出られたときは距離を置き見守りを行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に個人のブラシを準備して身だしなみをさせていただいている。介助が必要な方はお手伝いしている。更衣時の服はご本人に選んでいただくようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々が保有する食文化や食習慣など理解把握したうえでその人にあった食事形態、やわらかく調理、食材を細かくカットなどの調理法で食を通じて生活の質の維持向上できるよう支援している	調理専門の職員と、利用者と一緒に協力し調理から片付けまでの一連を行っている。家庭菜園もあり、収穫の楽しみを感じつつその時々メニューを考えている。週2～3回は配食サービスを利用し、栄養バランスの調整も考慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月3回のメニュー献立を考え栄養が偏らないようバランスよく確保できるようにしている。食事サポート時は配慮、方法、工夫とまた突然の嗜好の変化など周りの様子もしっかり観察している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のADLを把握できない部分はお手伝いしている。また、拒否がある場合は時間を空けて声掛けをしたり他スタッフと代わりケアをしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ時間毎のトイレ誘導を行い排泄の失敗やオムツ類の使用を減らせるよう支援している	利用者の排泄パターンや状況により使用するおむつやパッドを変え、一人ずつに適したものを使用するようにしている。結果的に、オムツの使用量が減り尿意を伝えてくるようになった事例がある。トイレは、職員の提案で助しやすい便器の向きや、利用者が使いやすい手すりの位置など細部に工夫がなされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にて食欲不振や不穏状態になり健康が保てない状態になることを避けるため水分量を管理し便の排出をスムーズにする。またチェックシートにて排便を記録し看護師指示のもと下剤などで調整している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状の人員配置ではご本人の希望やタイミングでの入浴は難しいが入浴をしていない日を記録し明確にして清潔を保っている。夜間に強い希望があれば入浴をしていただくこともある。	広い浴室の環境から、車いすであってもゆったりと入浴を楽しむことができる。介護レベルにより現在は一人で入浴できる利用者がいないため、専ら職員の声掛けにより入浴している。利用者の生活習慣から夜間入浴をしたり、失敗などの場合はいつでも使えるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し休息の訴え時は休んでいただいている。また穏やかに休まれるように安心できる声かけで対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明を入れ所定の場所に保管し確認できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(皿洗い・洗濯物)のできる事を探し、感謝の声掛けをしている。また囲碁をされるかたがおられるのでオセロ盤を利用し行っている。時間を見て疲れないように工夫している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ体制をみてなるべく希望を聞けるようにしている。帰宅願望が出た場合など引き留めず外に出ていただきスタッフが後ろからついて行くようにしている	天気が良い日は、近くの公園へ出かけたり、つつじ祭りや道の駅への買い物等、車で出掛けることもある。地域からの誘いで夏祭りも参加したことがある。日常の中でも、ウッドデッキでティータイムをするなど外気浴に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ちたい利用者様にはご家族と相談のうえでご本人に管理していただいている。希望のある方には一緒に買い物に出かけできるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時の状況を見て可能な限りできる用意七える		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはその月の貼り絵を飾り、季節感を出し居心地のよい空間作りをしている	リビングからはウッドデッキがつながっており開放感のあるつくりになっている。また、カーテンはオープンになっており、外の様子や自然な光が差し込み気持ちよく過ごせるように配慮している。調度品や観葉植物を所々に置き、落ち着けるように工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にはいられお1人で過ごされる時間を持たれる方や入居者同士でお話しされるようソファを置いたり、穏やかに過ごされるよう空間づくりを心掛けている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご家族との写真を飾ったり、自作の作り物、カレンダーなど自宅から持って来られたものなど好みの物を置くようにしている	日中リビングで過ごす方々が多いが、各々利用者の個性あふれる居室で思い思いの時間をゆったりと過ごすことができている。掃除や換気等が不十分な時には職員が手伝ったりして快適にしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室前にはお名前を貼り、ご自分の居室だと認識できるようにしなるべく自立できるようにしている		